

<p>■ 多度祭</p> <p>○多度大社の実景</p>	<p>13:57</p>	<p>N 三重県桑名市にある多度大社。 (たどたいしや)</p>
<p>○集まる戸津地区の人々</p>	<p>14:02</p>	<p>N ここに一年に一度人々を熱くするお祭りがあると云います。</p>
<p>○話す祭り人(陸人くん)</p> <p>○話すお兄さん</p>	<p>14:11</p>	<p>N お祭りの参加者に聞いてみると…</p> <p>「どうせなら一発上げたいですね」</p> <p>「ビビったら負けやぞっていうだけです」</p>
<p>○胸元に扇子を入れる</p> <p>○馬に乗って闊歩する</p>	<p>14:19</p>	<p>N 一発上げたい？ビビったら負け？ 一体どんなお祭りなのでしょう？</p>
<p>○多度大社の参道脇の急坂ズームイン</p>	<p>14:26</p>	<p>N その祭り。 それが、多度大社の参道脇にあるこちらの急坂を馬で駆け上がる「上げ馬神事」が見どころの多度祭(たどまつり)。</p>
<p>○暴れ馬に乗る陸人くんのロング</p> <p>○馬にまたがる陸人くんの表情</p>	<p>14:39</p>	<p>N この神事に参加できるのは、御厨(みくりや)と呼ばれる、氏子地区7地区。 その中から、稚児(ちご)1名、騎手6名を選出し行われます。</p>
<p>○多度大社の屋根</p> <p>○中で祝詞をあげる様子</p>	<p>14:51</p>	<p>N それも、人が選ぶのではなく神様を選ばれる、というのが、この多度祭の特徴。</p>
<p>○神占い</p> <p>○指示書を各地区に渡す</p>	<p>15:02</p>	<p>N 4月1日に行われる神占いで、騎手の名前が、神様から告げられます。</p>

<p>○戸津地区区長など3シヨント</p> <p>○区長が封筒の封を切る</p> <p>○封筒の中の陸人くんの文字</p>	<p>15:21</p> <p>15:27</p>	<p>特に、最初に馬をあげる騎手がいる地区は、「花馬(はなうま)」と呼ばれ、その年の祭りを仕切る重要な役割。</p> <p>N この年の花馬は、戸津(とつ)地区。</p> <p>N 神社から預かった封筒の中には、その年に騎手となる若者の名前が。</p>
<p>○区長からパンして伊藤陸人くん</p> <p>○伊藤陸人くんインタビュ―</p>	<p>15:37</p>	<p>N 花馬の騎手となったのは、「こちらの伊藤陸人(いとりのくと)くん、17歳。</p> <p>「初めてのことばかりで、まだ全然慣れない感じがすごくあるんですけどやっぱり一ヶ月ありますから、これからなんとかやっついこうと」</p>
<p>○馬の練習でゆったりと歩く人々</p>	<p>15:54</p>	<p>N 発表の翌日、早朝から、本番に向けた乗馬の練習が始まります。</p>
<p>○乗馬の練習ロング</p> <p>○駆け抜ける陸人くん</p> <p>○乗馬を終え戻ってきた陸人くん</p>	<p>16:02</p>	<p>N 元々は、無事に境内に上がった馬の数や、その順番で、豊作や凶作、収穫時期などを占ったと言われる上げ馬(あげうま)神事。</p>
<p>○雨の多度大社</p> <p>○ぬかるんだ坂</p>	<p>16:17</p> <p>16:27</p>	<p>N 5月4日、春雨が降りしきる中いよいよ本番の時を迎えました。</p> <p>N 夜からの雨で坂の土がぬかるみ決して好条件とは言えないよう。。。</p>

○伊藤陸人くん一言

「やっぱ緊張してきました。」

○担がれて運ばれていく  
陸人くん

16:37

N 騎手となる若者は、  
襖(みそぎ)をし、  
清められているため、祭りの期間中、  
地面に足をつけることができません。  
馬まで担がれて運ばれていきます。

○馬に乗せられる

○坂爪掛けの様子

16:51

N その頃、坂の上では、ご弊が抜かれ  
坂爪掛(さかつめかけ)が

○寄りで削る人々の様子  
を見せる

行われます。

これは、花馬の関係者が坂を

登りやすくするため、

青竹で坂を削るもの。

他の地区の関係者は、

それを阻止しようと邪魔をし、

両者の激しい攻防が

繰り広げられます。

○坂爪掛を坂下から眺め  
るロング

○陸人くんスタート

17:17

N そして、いよいよ陸人くんが  
スタート。

○一直線に坂を目指す陸  
人くん

17:25

N 参道の坂を目指す、一気に馬を  
馳せます。

○坂の上の戸津地区の  
人々

17:29

N しかし。

○坂を下る馬ロング

17:32

N ぬかるんだ坂に馬が足を取られ、  
坂を登りきることが  
できませんでした。

○担ぎ上げられ拍手で迎  
えられる陸人くん

17:39

N 担ぎ上げられる陸人くんにも  
悔しさが滲みます。

○同ポジで各地区の登り

17:47

N 他の地区も、我こそはーと、

<p>を見せる</p> <p>○山マークの半纏の地区 ○走っていく陸人くん</p>	<p>18:04</p>	<p>N 馬を走らせませんが、天候の影響、そして、ぬかるむ坂に全速力で踏み込んでいく恐怖心が邪魔をするのか、うまく登りきることができません。</p> <p>N 誰も登れないという膠着(こうちやく)状態の中、陸人くん2回目のチャレンジ。</p>
<p>○坂の上に飛び出してしまっ まう</p> <p>○暴れる馬 ○待機所の陸人くん</p>	<p>18:13 18:16</p>	<p>N あっ危ない！</p> <p>Z 登り切りたい！という気持ちの前に出て、体だけが飛び出してしまいうまくいきません。</p>
<p>○待機所の陸人くん</p> <p>○晴れた麓の橋 ○多度大社の旗 ○集まった見物人</p>	<p>18:25 18:33</p>	<p>N 祭りは、後1日。 明日に全てを賭けます。</p> <p>N 翌朝。 快晴となった会場には、迫力ある上げ馬神事を一目見ようと、多くの見物人がやってきました。</p>
<p>○待機所の様子 ○緊張する陸人くん</p>	<p>18:46</p>	<p>N 待機する騎手の若者たちは、皆一樣(みないちよう)に緊張の面持ち。</p>
<p>○坂の上で固唾をのむ地区の仲間たち ○スタートの号令とも言えるカウントダウン ○スタートする陸人くん ○走り抜ける馬</p>	<p>18:53</p>	<p>N 上げ馬を成功させたい。その気持ちは坂の上で、固唾(かたず)を飲む地区の仲間たちも同じ。スタートの合図を送る声にも自ずと力が入ります。</p> <p>N その思いが一つになったところで</p>

<p>○ 駆け上がる馬</p>	<p>19:16</p>	<p>陸人くん、ためらうことなく 一気に走り抜けます。 N そして。</p>
<p>○ 坂を登りきる陸人くん</p>	<p>19:18</p>	<p>N 見事に馬を上げ切りました。</p>
<p>○ 湧き上がる地区の人々</p>	<p>19:23</p>	<p>N 地区の仲間たちも世代を超えて この喜びよう。。。。</p>
<p>○ 陸人くんと抱き合う</p>	<p>19:35</p>	<p>N 安心したのか、陸人の目には、 涙が浮かんでいるようにも 見えます。</p>
<p>○ 中ロングで万歳三唱</p>	<p>19:42</p>	<p>N 花馬、 という重責を担うことになった 17歳の若者の頑張りが 実を結んだ、 「 美し(うまし)瞬間です。」</p>